

不登校児童生徒への対応事例14 (高等学校第 1 学年男子)

～ 学校と家庭と S C の連携協力 ～

問題の把握

当該生徒は、成績不振の科目が複数あり、夏休み明けより断続的に欠席が続いていたため、家庭訪問を行ったところ、保護者からは、当該生徒の生活が昼夜逆転し、朝、起こしても起きてこないとのことであった。当該生徒は、夜中までテレビを観ていて、昼頃に起きてくるが、その後、学校に行こうとしない生活が続き、友だちが連絡を取っても、電話を切ってしまうような状態であった。

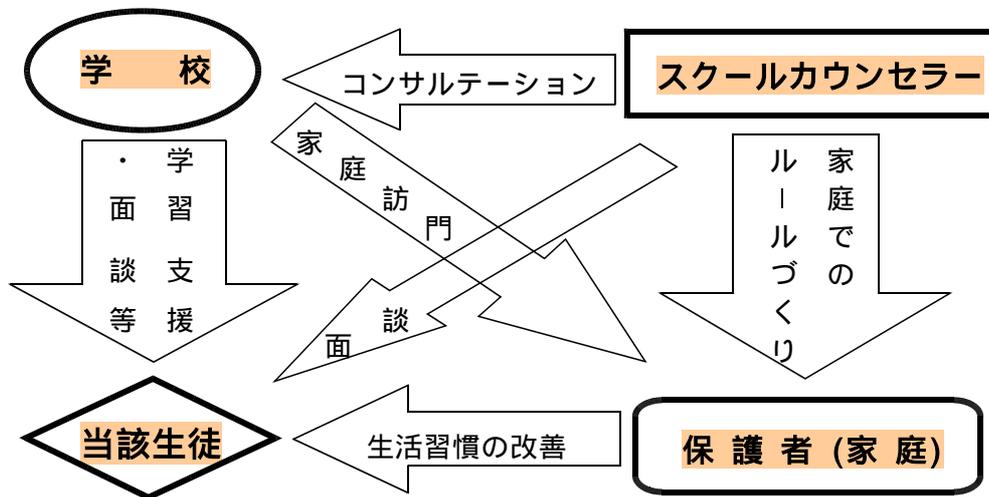
対応状況

学校は、家庭訪問や電話連絡により当該生徒の状況を把握し、教育相談を継続的に行うとともに、保護者了承のもと、スクールカウンセラーによる当該生徒のカウンセリングを実施した。

学校は、スクールカウンセラーからのコンサルテーションを受け、当該生徒の支援チームを編成し、登校時、授業中、放課後などの観察・声かけ・面談・学習支援等を行うとともに、家庭訪問を継続的に行い、当該生徒の生活習慣の改善や家庭でのルールづくりなどについて保護者に協力を依頼した。

学校は、家庭と連携し家庭での様子について把握するとともに、支援チームにおける情報共有やスクールカウンセラーからの助言により対応策を検討し、当該生徒の状況に応じて日常的な声かけや学習支援、家庭での生活習慣の改善の依頼等を行った。

当該生徒の断続的な欠席は徐々になくなりはじめ、10月からは平常どおりに学校生活を送れるようになった。



不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・学級担任が1人で抱え込まないよう支援チームを編成し、保護者やスクールカウンセラーと情報を共有しながら当該生徒に対する対応方針を決めること。
- ・当該生徒の状況や不登校となった要因・背景等を適切に把握し、当該生徒や保護者が必要としている支援を行うこと。